

# 千葉県 NEWS

## CHIBA CANCER CENTER NEWS

# がんセンターニュース



第55号

令和6年6月18日発行  
発行/千葉県がんセンター

## 基本理念

私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します。

### 巻頭言

## 病院長就任にあたって－ 10年後の千葉県がんセンターを見据えて

病院長 加藤 厚



この度、病院長に就任いたしました加藤厚と申します。千葉県がんセンターは一昨年創立50周年を迎え、新病院もオープンしてあらたな出発に向かって改革を進めています。

日本では少子高齢化が進行していますが、医療にとってそれ以上に深刻な問題は有病率の高い高齢者数が大都市圏やその周辺などの一部の地域を除いて減少していることです。千葉県保健医療計画（千葉県ホームページ参照）によると、がんの入院患者数は今後数十年間横ばいで推移し、がん専門病院としての千葉県がんセンターにおいても、取り巻く環境は年々厳しくなっています。一方、生産者人口の減少などにより、看護師、看護補助者、介護福祉士などの人材は不足しており、医療従事者の確保は重要な課題となっています。

また、今年から医師の働き方改革が始まり、業務の効率化・標準化が喫緊の課題となっています。さらに看護師を始めとした医療従事者全体の働き方改革を推進する必要があります。このためには、医療DXの推進は避けられない課題であり、AIによる医療書類の自動作成やCT・内視鏡のAI診断など、ここ10年で急速に進んでいくことでしょう。また、医療機関における電子カルテ情報の共有、すなわち医療情報連携ネットワークの構築も重要な課題です。こうした医療DXは医療機関の効率化が最終的な目的ではなく、質の高い医療・介護サービスを提供することで患者さんに最良の医療を受けていただくための手段です。そのためには、かかりつけ医から病院、さらには薬局や訪問看護などの医療機関が有機的なネットワークを構築し、自施設の特徴を活かしながら協力・共存していく方向性が求められます。

千葉県がんセンターにおいても医療DXを推進するとともに、地域医療連携室を中心に病院全体で「顔の見える」病診連携に取り組んでいます。また、人材の育成を通して、がん専門病院として高度な医療が提供できる体制の構築を進めていきます。今年を改革元年として、10年後の千葉県がんセンターが地域の患者さんのがん医療に貢献できる施設として信頼されるように、「心と体にやさしく、希望の持てるがん医療の提供」を基本理念に、職員一同、努力して行く所存です。今後とも皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

# 臨床の現場から

## がん診療における病理診断

診療部長・臨床病理部長 伊丹 真紀子

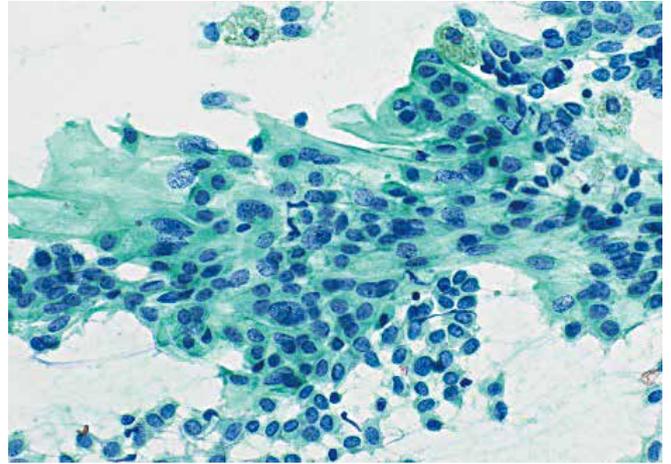
**千** 葉県がんセンター臨床病理部では、がん診療における病理診断を行っています。手術・生検などにより患者さんの体から採取された組織・細胞から標本を作製して顕微鏡でその形態を観察し、病変が腫瘍か非腫瘍か、腫瘍ならば悪性か良性か、手術標本の場合は病変が採り切れているかなどを診断するのが従来の病理診断ですが、現在は、形態観察に加えて、組織や細胞診標本を用いた多くの遺伝子検索を組み合わせてがんの病理診断に活用しています。具体的には、染色体転座、遺伝子点突然変異、遺伝子増幅・欠損などを、FISH法、PCR・RT-PCR法、網羅的遺伝子解析法など様々な分子生物学的手法により解析し、組織・細胞像と考え合わせることで、精度の高い病理診断を臨床医に提供しています。

また、近年、腫瘍組織における遺伝子異常や分子発現の検索は、分子標的治療薬などの適応決定にも重要な因子としてガイドライン化されてきており、診療において重要性を増しています。これらの各種遺伝子検査では、多くの場合、日常の病理診断のために作製しているホルマリン固定パラフィン包埋標本が用いられており、それは2019年から保険診療が始まったがん遺伝子パネル検査でも同様です。適切な遺伝子検査を行うためには、DNA・RNAの品質保持がとても重要ですが、それは、いかに高品質のパラフィン包埋標本、すなわち病理標本を作製するかにかかっています。千葉県がんセンターでは、臨床各科の協力のもと、組織を採取してからホルマリン固定までの時間、ホルマリンに固定している時間、パラフィン包埋標本の適切な温度下での保管などを細かく管理することにより、病理標本の質を担保しています。

今後も最新の知見を取り入れながら、精度の高い病理診断を提供していくことを目指し、病理医、病理技師、スタッフ一丸となって、日々努力していきたいと思ひます。

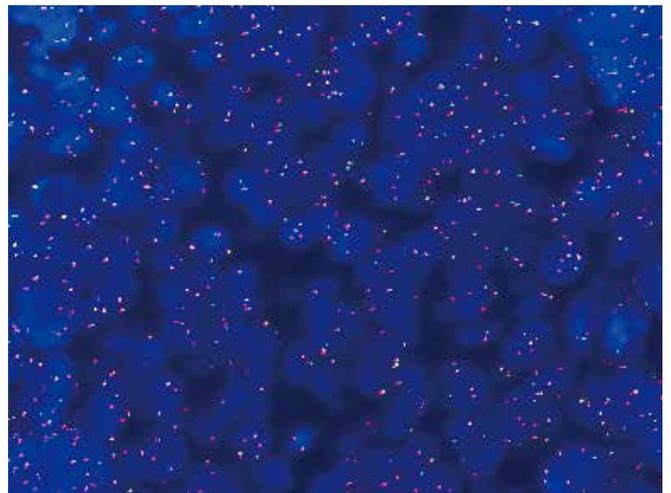


耳下腺 多形腺腫



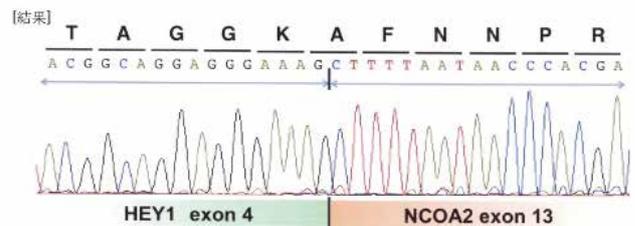
細胞診 パパニコロウ染色

リンパ節 濾胞性リンパ腫



FISH法 Bcl-2 splitあり

軟部 Mesenchymal chondrosarcoma



分子病理検査 (RT-PCR 転座解析)

# 地域連携室だより

## ひとつ上をいくワンストップでの支援

患者総合支援センター部長 米本 司

**2** 024年4月、患者総合支援センターは、看護師長 石原夕子、地域医療連携室 看護師 宮地奈央子と藤澤亜紀、入退院支援室 看護師 安藤美知子が配属となり、新しい体制となりました。

2020年10月、に新病院オープンに伴い新設された患者総合支援センターは、地域医療連携室と入退院支援室、周術期管理センター、がん相談支援センター、千葉県地域統括相談支援センターの5部門から構成されています。「ワンストップで多方面からの支援を」というスローガンを掲げ、看護師と薬剤師、医療ソーシャルワーカー、事務職員を含め、多職種で連携を図り活動をしています。患者総合支援センターのあるバックヤードはワンフロアで、いつでも情報共有ができ、顔の見える多職種連携が可能です。それぞれの専門性を発揮しながら

チームとして連携しております。今年度は、更に初診から退院後までの間、そして来院時から病院を離れるまで、患者さんにとって一連の支援が、よりスムーズに受けられるように取り組んでいきます。新病院オープン以降も運用フローを都度、見直してきましたが、既存の運用フローを大きく見直します。患者さんが安心して治療や入院生活を送れるように、患者中心の医療サービスや支援の提供を今までよりひとつ上をいくワンストップで完結することを目指します。

地域の患者さんをご紹介いただく先生方とも、スムーズに連携できるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。



## 治験の用語：スクリーニング検査

治験臨床試験推進部長 三梨 桂子

治験では患者さんから治験参加の同意を得た後に、スクリーニング検査を行います。これは、治験で設けられた参加基準に適合しているかを確認する検査で、採血・採尿・CT検査などが行われます。このスクリーニング検査で基準に合っていることが確認出来ると、治療を開始することが出来ます。最近では、海外に患者さんの検体を送って検査することもあり、結果が出るまでに3週間程度時間がかかる事もあります。

### 治験アップデート

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

**現在募集中の治験情報** R6/3月末時点での募集中試験数は36件

①食道がん 2件	④前立腺がん 2件	⑦乳がん 11件	⑩多発性骨髄腫 3件
②胃がん 6件	⑤膀胱がん 2件	⑧リンパ腫 3件	⑪非小細胞肺がん 2件
③大腸がん 2件	⑥尿路上皮癌 1件	⑨骨髄線維症 1件	⑫頭頸部癌 1件

当センターでは以下の治験を実施しています

ホームページアドレス

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijoukyou.html>



# 看護の現場から

## 摂食嚥下障害看護認定看護師としての活動について

外来診療部門 摂食嚥下障害看護認定看護師 金塚 浩子

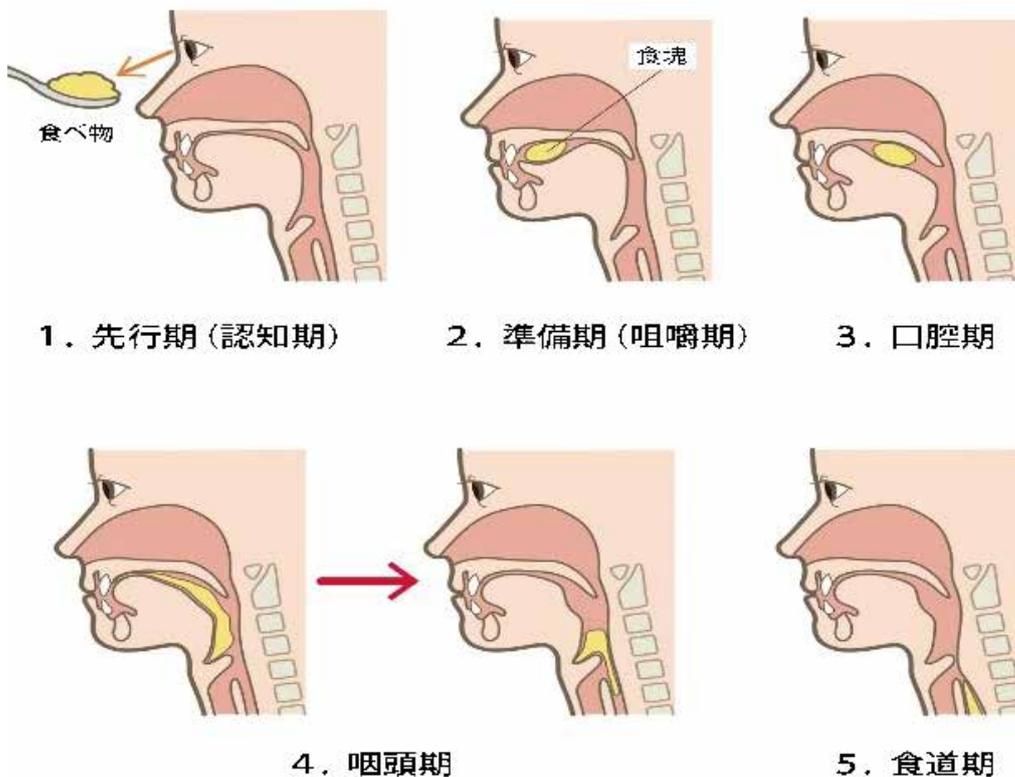
**こ** れまでの看護師人生の中で、病棟勤務しか経験がありませんでしたが、今年度外来診療部門に配属になりました。外来の患者さんがどのように診療を受けているのかを含めて、外来看護について日々学んでいます。病棟では、病院が生活の場となっており、入院生活を安全に・安楽に過ごしていただく事を念頭に看護を行っていました。外来では、通院はその中のほんの一場面であることより、患者さん個々の生活リズムを尊重した関わりが重要であることを改めて実感しています。病棟では、関わる場面やタイミングをある程度計る事ができますが、外来では患者さんと関わる時間が限られている中で、タイミングを逃さず

にタイムリーに関わる必要があると思います。その為には、患者さんのニーズを見逃さない体制作りが必要であり、今後積極的に取り組んでいきたいと思っています。

病棟勤務から継続して行っている事は、毎週1回摂食嚥下障害看護認定看護師として多職種と一緒に行う活動です。活動内容は、昼食時のミールラウンドや食事開始時の嚥下評価を行い、食事内容の決定・変更、姿勢調整、変更後の評価を実施し、患者さんや病棟へのアドバイスなどです。また、食支援と栄養管理は繋がっていますので、NST（栄養サポートチーム）にも参加しています。評価結果をもとにNST会議で、方針の相談・検討を行い、部署へ情報共有をしています。

これまで認定活動を通して、患者さんにとって食べる事は、楽しみや生きがい、生きるエネルギーとなることを実感しています。食支援を通し、患者さんを支える看護を継続していきたいと思っています。配属後間もないため、外来看護はまだまだ学んでいる途中ですが、外来と病棟の両方経験があることを強みとし、継続した看護が行えるように取り組んでいきます。

### 摂食嚥下の5期モデル



この5期モデルを元に、どの期に問題が生じているのかアセスメントしながら、食事内容や訓練内容を検討しています。

お知らせ

藤里前病院長の最終講演

藤里前病院長最終公演のスライドの一部

令和6年3月28日 センター大会議室で、藤里正視病院長の退職記念講演会が行われた。

タイトルは「緩和ケアにおける音楽療法」であった。ギターソロによる演奏を交えながらの講演となった。

当センターでは、2006年より緩和治療の一環として、音楽療法を取り入れている。「リクエスト曲

の演奏をすることで、ポジティブな記憶の回想を引き出し、ライフレビューにつながる。自分自身での気づきを促すセルフケアへの援助をし、レジリエンスを向上させる効果がある。傾聴と同様の効果を、非言語的アプローチとして提供できる。信頼関係が、よりスムーズに築くことができる。同時に家族のグリーフケアにもつながる」という講演内容であった。

秋桜(コスモス)では、「先生の音楽聴いてから気持ちが前向きになって…」との患者さんの発言も紹介された。最後に、さくら(独唱)を歌われて、講演が終了した。



音楽療法の方法

- ・ 集団または個別セッション
- ・ リクエストに即興演奏で応える (回想法の利用)
- ・ 患者さん・ご家族との対話
- ・ 同質の原理
- ・ 歌詞も重要



秋桜(コスモス) / 70代女性



「娘が決めてくれたらそれでいい」  
「そんな時はひとおもいこ…」



# 初診担当医表

\*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。  
\*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

2024年4月1日より

診療科	月	火	水	木	金
肝胆脾外科	岩立 陽祐	賀川 真吾	加藤 厚 石毛 文隆	柳橋 浩男	有光 秀仁
ハイパーサーミア	千葉 聡	千葉 聡	千葉 聡		千葉 聡
食道・胃腸外科	鍋谷 圭宏 (第2・第4) 外岡 亨 水藤 広	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	早田 浩明 桑山 直樹	鍋谷 圭宏 成島 一夫 加野 将之 桑山 直樹	加野 将之 水藤 広 天海 博之
消化器内科	傳田 忠道 三梨 桂子 鈴木 拓人 喜多給美里	傳田 忠道 須藤研太郎 天沼 裕介 杉田 統	三梨 桂子 中村 和貴 喜多給美里 石垣 飛鳥 古賀 邦林	傳田 忠道 三梨 桂子 徳長 鎮 箕輪 真寿美	須藤研太郎 中村 和貴 天沼 裕介 北川 善康 古賀 邦林
呼吸器外科	岩田 剛和		岩田 剛和		岩田 剛和
呼吸器内科	水野 里子 芦沼 宏典	新行内雅斗 芦沼 宏典		新行内雅斗 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山田 英幸	中村 力也	羽山 晶子 山崎美智子 古村 悟志	羽山 晶子	山崎美智子
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	鈴鹿 清美 海老沢 桂子 糸井 瑞恵	鈴鹿 清美 井尻 美輪 (第2・第4) 草西多香子 糸井 瑞恵 村岡 純輔	田中 尚武	井尻 美輪 草西多香子 (第2・第3・第4・第5) 糸井 瑞恵 (第1・第3) 村岡 純輔	海老沢 桂子 井尻 美輪
泌尿器科	小丸 淳 萩原 和久 新井裕太郎	米田 慧 門野 洋大 横地 郁哉 (第2・第4)	萩原 和久 新井裕太郎	鈴木 一弘 門野 洋大	小林 将行 米田 慧 横地 郁哉
腫瘍血液内科	武内 正博 真子 千華	熊谷 匡也 辻村 秀樹 三科 達三	武内 正博 菅原 武明	熊谷 匡也 真子 千華 三科 達三	武内 正博 熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	井内 俊彦 長谷川 祐三	(担当医)	堺田 司 長谷川 祐三
頭頸科	(担当医)	木下 崇 三田 恭義 浅井 俊一		木下 崇 三田 恭義 浅井 俊一	
整形外科	米本 司 鴨田 博人 木下 英幸	鴨田 博人 萩原 洋子		米本 司	米本 司 萩原 洋子 木下 英幸
緩和医療科	坂下 美彦		坂下 美彦		
核医学診療部		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

<b>電話 予約</b>	<b>●初診・再診予約(患者予約)</b> 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 <b>043-263-4071</b>	<b>●予約変更(患者予約)</b> 月曜日～金曜日 午後1時～午後4時 <b>043-263-4071</b>	<b>●医療機関からの直接予約</b> 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 <b>043-264-5633</b>
------------------	---	--	---

**ご案内の交通**

**JR千葉駅から** 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車  
小湊バス: 千葉県がんセンター行乗車・終点千葉県がんセンター前下車

**JR鎌取駅から** 所要時間:約13分

千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR蘇我駅から** 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**松ヶ丘I.Cから**

大網街道を大網へ向かって約2km右側

**千葉県がんセンター**  
〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2  
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>